

まちが育む想い、希望、そして夢、福智に生きる

人々

平成筑豊鉄道

若き鉄道員の1日

人々の暮らしや想いを乗せて「へいちく」は、今日も走る。

平成元年10月、廃線予定だった旧国鉄の口一カル線を引き継ぎ、開業した「平成筑豊鉄道」。その開業と同じ年に生まれた27歳・若手社員の一候の「1日」を追いました。



どんな経験でも役に立たないことはない。人とのふれ合いを通じて知る事も多い。

馴染み深い鉄道だからこそ
なおさら募る責任感

「発車いたします。ドアが閉まります。ご注意ください。よく通る低い声のアナウンスが車内に響くと、列車はゆっくりと走り出します。乗務員を務めるのは入社3年目になる一候欽哉(ふたまたよしちか)さん。27歳。保育福祉の専門学校を卒業し、保育士として勤めた後、平成25年に平成筑豊鉄道(以下、へいちく)へ入社しました。「将来を見据えて転職を考えていた時に、へいちくを利用していた父が乗務員募集の案内を見つけたのが応募のきっかけでした。子ども時代、田川に暮らしていた頃にへいちくに乗った思い出もあって親しみがありましたから、採用が決まった時はとてもうれしかったですね。」



「自分が守らなければ」その気持ちは次第に強く。

乗る人、降りる人 お客様の笑顔を乗せて走る

これから学校や職場へ行く人、町を訪れる駅に降り立った人、新たな旅立ちをする人。
お客様の笑顔が見たいから、今日もへいちくはひた走る。



FUKUCHI FORTUNE SMILE

TIME TABLE ▶	11:55 出勤	
	12:14 点呼	
	12:34 乗務	
	点呼 休憩 15:58 乗務	
	16:33 点呼 点検作業	
	17:34 乗務	
	21:22 点検作業	
	点呼 業務終了 21:47	

日々の作業の緊張と充実が、鐵道マンとして、そして「人間」として成長させてくれる

1年の研修を経て、初めて金田駅のホームに立った時のこと、二俣さんは「こわかった」と振り返ります。「事故のないように安全に、責任感を持って務め上げなければならない」と、気が引き締まる思いでした。

仕事に慣れた今も30分前には出社します。休日は好きな釣りでリフレッシュし、乗務員といふ業務を通して、乗客との経験値も活きてる毎日

乗務員といふ業務を通して、乗客と日常的な触れ合いも生まれます。乗車していく人への挨拶や、ぐずる子どもがいれば、保育士経験を生かして上手に対応したりと、利用者に対する感謝を自分なりに伝えている二俣さん。

「僕、昔は人と話すのが苦手だったんですよ。でも、子どもが好きで保育士になつて、その後、乗務員として接客を行

うに心がけているといいます。

う中で、「物怖いぜ」と人に前で話せるようになります」と、はにかみながら話してくれました。

学生や車を持たないシニア層などにとって、なくてはならない存在の地域鉄道「へいちく」。少子化などによる乗客減少の課題を抱えながらも、本格化する高齢化社会を前に、沿線利用者の足を担う大切な役割をまつとうしたい――。社員誰もがそんな思いを胸に日々働き、そのひたむきな心が地域を支えています。

